

平成26年度 事業報告

I WAC事業 《 公益目的事業・その他事業1・その他事業2 》

◆ WAC(ウェルディングコミュニティ)事業 ◆

平成元年に厚生省(現厚生労働省)が「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会福祉サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

○公益目的事業 :WAC法に基づく施設(疾病予防運動センター・高齢者総合福祉センター・在宅介護サービスセンター・有料老人ホーム)の設置および運営

○その他事業1 :疾病予防運動センターのうち60歳未満の利用者(全利用者の3割相当)に該当する部分

○その他事業2 :在宅介護サービスセンターのサテライト拠点(奈良事業の奈良店)

老人保健施設・訪問看護ステーション・ケアプランセンター(奈良事業のみ)

(1)奈良事業 (厚生労働省WAC認定事業:平成2年10月17日付)

①疾病予防運動センター (WAC第1号施設) 【ニッセイ・アーク西大和】

- ・人気のあるパーソナルトレーニングに力を入れ、取組んだ結果、売上目標をほぼ達成することができました。
- ・新規会員への丁寧な対応・サービスを入会后6ヶ月間継続実施することにより、退会者の削減に繋げることができました。
- ・フロントスタッフの効率的な配置・ローテーションに努め、人件費を削減しました。
- ・新規入居者を中心にエデン入居者の利用が増加して、健康維持面で大きく役立ちました。

②診療所 (WAC第1号付置施設) 【ニッセイ聖隷クリニック】

- ・パーソン・センタード・ケアの考え方にに基づき、入院生活の中にも個別性のある楽しみ、癒しの提供や外出援助等の個人を意識したケア計画を実践しました。
- ・医師、看護師、理学療法士等、多職種によるターミナルカンファレンスを実施し、ターミナル期の個別ケアを複眼的に検討し、実践しました。
- ・近隣医療機関との連携による地域住民の受託検査、予防接種の実施、河合町介護教室へ講師派遣、河合町の保健事業への協力、献血活動等の地域住民に対する疾病管理、健康増進等を推進しました。
- ・外来は整形外科休診の影響等により患者数は減少しました。入院は、診療報酬改定により、入院単価はアップしましたが、患者数が減少し、厳しい運営となりました。

③高齢者総合福祉センター (WAC第2号施設) 【ふれあいプラザ】

- ・文化教養・体験講座では、「お稽古」としての要素の高い講座について、公表の場の提供、エデン作品展へ出展など、受講者のモチベーションの向上を図るための企画を計画しました。
- ・「転倒予防」をテーマとした出張講座を近隣自治会に向けて開催しました。
- ・ふれあいイベントでは、「月亭八方・文都師弟饗演落語会」をまほろばホールにて開催し、隣接する各自治会との連携と交流を深める事ができました。

④在宅介護サービスセンター [訪問介護、福祉用具貸与・販売事業]

(WAC第3号施設) 【ニッセイいれい在宅介護サービスセンター ベル西大和店・奈良店】

- ・西大和店では、訪問介護サービスの介護保険扱訪問時間の増加、施設内へのヘルパー派遣により予算を上回る収益となりました。奈良店では、訪問介護サービスの利用者数は昨年比で微増しましたが、訪問時間が減少し、予算未達となりました。

⑤訪問看護ステーション [訪問看護事業] (WAC第3号関連施設) 【訪問看護ステーション西大和・奈良】

- ・西大和店はリハビリニーズや医療依存度の高い利用者数の増加により予算を上回りました。奈良店は医療保険扱の癌末期や難病の利用者が多いため入院やご逝去されることが多く、継続利用が困難なケースも影響して、利用者数、訪問件数ともに予算未達となりました。

⑥ケアプランセンター [居宅介護支援事業] (WAC第3号関連施設)

【ニッセイいれいケアプランセンター西大和、ニッセイいれい在宅介護サービスセンター ベル奈良店】

- ・ケアプランセンター西大和では、ベル西大和店と統合でケアプラン作成人数は増加しましたが、下期に利用者の入院・入所・ご逝去などにより、若干予算未達となりました。ベル奈良店では、地域包括や事業所への渉外活動により信頼関係が築かれ、ケアプラン作成人数が増加しました。

⑦有料老人ホーム [特定施設入居者生活介護事業] (WAC第4号施設) 【奈良ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は24戸で、予算戸数(18戸)を大きく上回りました。また退去が17戸(一般居室12戸、介護居室5戸)、介護居室への住替えが12戸ありました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は399戸(総戸数408戸に対し入居率97.8%、入居者数498人)となりました。(一般居室358戸/362戸(入居率98.9%)、介護居室41戸/46戸(入居率89.1%))
- ・入居者の平均年齢は81.6歳(男性81.0歳、女性81.8歳)となり、対前年0.2歳増となりました。
- ・総入居者数498人のうち要介護等認定者数(割合)は、年度末123人(24.7%)となりました。
- ・パーソン・センタード・ケアの考え方にに基づき、入居者一人ひとりの理解を深め、その人らしい生活を支えるためのトータルケアサービスの提供に努めました。
- ・食事サービスの質向上と効率化を目指し、管理栄養士が献立や食材選定に積極的に関わることで、大食堂利用者の満足度は向上しつつあるが、園周辺の利便性が高く、自炊する入居者も多く、全体の喫食数が伸び悩み、委託業者の運営に影響がでるなど今後の重要課題となりました。
- ・地域社会との連携・交流については、地域連携グループを中心に「出張介護講座」「介護の日ふれあいフェスタ」の開催や「葛城エコフリーマーケット」への出店(売上は河合町社会福祉協議会に寄付)、地域の総合防災訓練にご入居者とともに参加しました。また、奈良ニッセイエデンの園学会では、地域の福祉事業所や教育機関を招待し、情報提供の場を拡大して開催しました。
- ・省エネ・資源循環活動の取組みについては、エコキャップ回収活動を継続し、また、共用部の避難誘導灯LED化や各部署で節電対策により、前年比で電気使用量が大幅に減少し、改善しました。

⑧介護老人保健施設 [介護老人保健施設、短期入所療養介護、通所リハビリテーション] (WAC 付帯施設)

【 奈良ベテルホーム 】

- ・同一敷地内の在宅関連事業所との連携を強化する中、ご利用者やその家族のニーズに対応し、選択しただけの施設を目指して積極的な渉外活動を展開しましたが、入所、ショートステイ、通所リハの全てにおいて予算未達となりました。
- ・地域社会との連携・交流については、「河合町しゃきっと教室」へ理学療法士や管理栄養士を派遣し、地域住民の介護予防に尽力するとともに、地域内の多事業所、多職種が集まる「河合町地域包括ケアを考える会」へ参加し、河合町との情報交換や参加者相互の交流を図りました。

②松戸事業 (厚生労働省WAC認定事業：平成6年12月15日付)

①疾病予防運動センター (WAC 第1号施設) 【 ニッセイセントラルフィットネスクラブ 松戸 】

- ・新規入会者が順調に増加傾向で推移し、8月には1,382名まで伸び、ここ3年間で最大の会員数となりました。
- ・退会者については、特に高齢者の病気や怪我による退会が目立ち、前年より増加となりました。

②診療所 (WAC 第1号付置施設) 【 松戸ニッセイ聖隷クリニック 】

- ・4月より新たに迎えた所長のもと、リハビリ部門の体制強化や超音波診断装置の新規導入を行い、外来、入院ともに前年を上回る患者数となりました。
- ・当年度から有料老人ホーム介護居室への訪問診療を開始し、推進した結果、収入面の増加につながりました。

③高齢者総合福祉センター (WAC 第2号施設) 【 ニッセイ松戸アカデミー 】

- ・地域交流の増進、高齢者の生きがい増進にかかわるサービスの提供など、従来からの取組みに加え、文化教養講座の内容の幅を広げるなど、新たなジャンルを通じ、地域との結びつきの強化を実現することができました。
- ・入居者ボランティア中心の企画の「子ども工作教室」は年8回の開催を重ね、モーターで動くおもちゃや空気圧の実験など子どもたちの興味を引くテーマで盛会が続きました。

④在宅介護サービスセンター [訪問介護事業] (WAC 第3号施設) 【 ニッセイエデンヘルパーステーション 】

- ・効率的な運営を意識しながら、継続的かつ地道な営業活動を行うことによって居宅介護支援事業所とのネットワーク強化を図ることができました。その結果、コンスタントに新規利用者を獲得でき、事業運営が安定しました。
- ・サービス提供を通じて得た利用者情報やニーズを担当者間で連携し、情報の共有、迅速な相談・対応に注力することでケアプランにも適切に反映され、その結果、利用者満足やケアマネージャーの信頼を獲得することができました。

⑤有料老人ホーム [特定施設入居者生活介護事業] (WAC 第4号施設) 【 松戸ニッセイエデンの園 】

- ・空室発生が年度末に集中する中での募集活動となり、一般居室の新規契約戸数は14戸、退去が18戸(一般居室14戸、介護居室4戸)、介護居室への住替えが6戸となりました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は342戸(総戸数352戸に対し入居率97.2%、入居者数428人)となりました。(一般居室309戸/315戸(入居率98.1%)、介護居室33戸/37戸(入居率89.2%))
- ・入居者の平均年齢は84.0歳(男性83.6歳、女性84.2歳)となり、対前年0.4歳上昇しました。
- ・総入居者数428人のうち要介護等認定者数(割合)は、年度末で130人(30.4%)となりました。
- ・認知症ケアマッピング、センター方式、個々入居者の残存能力の把握と生活リハビリの継続支援等により個別性を重視した介護サービスの提供につなげています。
- ・松戸ニッセイエデンの園の別館大ホールが松戸市の111ヶ所目の一時避難所に指定され、3月に松戸市危機管理課による指導の下、近隣団地自治会や松戸市立東松戸病院等と合同で合同避難所運営訓練を実施しました。

Ⅱ 調査研究事業 《 公益目的事業 》

(1) 地元行政機関等と連携した地域住民への高齢期の「健康」「生きがい」「安心」「住まい」の4分野(以下「4分野」という)に関する情報提供

- ・3月に奈良施設の大ホールを利用して、「“快眠”への暮らし」をテーマに、奈良女子大学生生活環境部久保博子教授による講演会と、ニッセイ・アーク西大和 健康運動指導士による体操講習のウェルネスセミナーを、地域住民も参加のもと、開催しました。
- ・11月に松戸施設の大ホールを利用して、「健康寿命をのぼそう！ おいしく食べ、運動し、元気ある生活を送り続けるために」をテーマに東松戸病院による市民講座が開催されました。

(2) WAC事業の展開の中で4分野に関するノウハウ・スキルの研究と成果の関係諸機関への情報提供

- ・高齢社会における安心なまちづくりに向け、高齢化率の高い地域における住民の見守りあい体制のあり方に関して、松戸市梨香台団地を中心に取り組み事例を収集し、その効果の検証、今後の方策等について考察を行いました。
- ・奈良施設、松戸施設の各職場内で、高齢者への提供サービス等に関する調査研究及び学会を9・11月に開催、その研究成果について地域住民や関係諸機関へ情報提供を行いました。
(社会福祉法人聖隷福祉事業団及び一般財団法人日本老人福祉財団との共同研究)

(3) 地域住民への4分野に関する情報提供活動の実施

- ・11月の「介護の日」に奈良施設、松戸施設内でイベントを開催し、近隣にお住まいの高齢者及びその家族に対して、介護・医療・福祉の知識向上に向けた取り組みを実施しました。
- ・奈良施設、松戸施設各々で「高齢期の暮らし」をテーマに講演会を開催し、高齢期の住まいの選択肢のひとつとして有料老人ホームを核としたまちづくり施設の情報提供に努めました。

Ⅲ 奨学金助成事業 《 公益目的事業 》

- ・介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士、理学療法士、作業療法士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行いました。
- ・1人当たり助成金は年間24万円(月2万円)、年間助成対象者は50人です。これまでの累計助成者数は598人となりました。